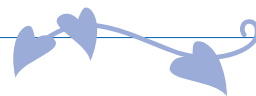


第2編 基本構想



第1章 福生市におけるまちづくりの課題と策定の趣旨



市の概要と総合計画の変遷

福生市は、都心から西へ約40kmで通勤・通学に便利な一方、武蔵野台地の西端に位置し多摩川の河岸段丘上にひらけ、豊かな自然を有する奥多摩の山並みが近くに望めるまちです。横田基地が市域の約3分の1を占めているため、基地部分を除くと行政面積は26市中では2番目に小さいながら、JRの駅が3路線5駅あるなど鉄道交通の便に恵まれたまちです。道路交通網も整備され圏央道のインターチェンジにもアクセスしやすい環境にあります。このように、他の地域にはない利便性と特色のあるまちとして発展し、昭和45年に市制が施行されました。

福生市のまちづくりの根幹を成す総合計画は、これまで3期にわたり策定され、その時々時代の背景や市民の期待に基づきまちづくりが進められてきました。

昭和52年（1977年）に策定された第1期の総合計画は、シビルミニマム（市民生活に必要な最低限の環境条件）の視点から主として都市基盤及び生活基盤の整備を中心としたものでした。

平成2年（1990年）に策定された第2期の総合計画は、「市民からの発想」、「まちの個性からの発想」を基本理念に、「輝く街 福生」を目指し、「快適環境都市」、「風格ある都市」、「人生80年時代に対応する都市」、「産業に活力ある都市」が目標として定められ、まちづくりが進められました。

平成12年（2000年）に策定された第3期の総合計画は、市民一人ひとりが自立し、誇りと責任をもち、夢と希望をもって主体的に21世紀を歩んでいけるよう、その恵まれた自然環境と立地条件を最大限に生かしながら、将来に継承していく活力あるまちの創造に向け、「やすらぎいきいき 輝く街 福生」を目標に設定し、まちづくりが進められました。

福生市を取り巻く時代環境と課題

第2期福生市総合計画期間中に地方自治を取り巻く環境は、地方分権という流れに大きく転換されることとなりました。第3期福生市総合計画がスタートした平成12年には地方分権一括法が施行され、本格的な地方分権の時代に入り、地方自治体は「地域の課題は地域で解決する」という自己決定・自己責任により、多様化・高度化する市民ニーズに対応することがより一層求められることとなりました。

平成19年から始まった第2期地方分権改革では、地方自治体へのさらなる権限移譲が予定されています。このことは、議決機関として、自治体の意思決定や執行機関を監視・評価する議会の役割がより重要性を増し、また、行政も執行機関として質の高い行政運営が求められ、何よりも福生市民が市政の主人公として、積極的に役割を果たしていくことが求められています。

また、地方自治を取り巻く環境は、本格的な少子高齢社会の到来、地球規模の環境問題への対応、高度情報化の進展など多くの課題が顕著となり、福生市においても財政状況が厳しい中、少子高齢対策、環境対策などをはじめ、さまざまな対応が進められてきました。

福生市の人口は平成14年の約62,500人をピークに減少へと転じ、さらには年少人口（0歳～14歳）と生産年齢人口（15歳～64歳）の減少、老年人口（65歳以上）の増加により、社会負担の増加と活力の低下が懸念されています。人口の減少は、福生市に限らず多くの地方自治体の課題となっていますが、今後より大きな課題として直面することが予想され、それに立ち向かうまちづくりが必要となっています。



福生市における「ひと」づくりの課題

これまで以上に多種多様な市民ニーズに対応するためには、市民と行政が強く連携し、創意と工夫を持ってまちづくりに臨まなければなりません。幸い、市民のまちづくりへの参画意欲は高まっています。市民一人ひとりが、責任を自覚し、互いに尊重し合い、協力してさまざまな課題に対応していくために、まちを支える「ひと」づくりをさらに進めるとともに、市民の自発的なまちづくり活動を支えることにより、市民のまちづくりに対する参画意識を醸成していくことが必要となっています。

福生市における「まち」づくりの課題

都市化の進展により自然環境が失われつつありますが、福生市には多摩川をはじめ、玉川上水、分水、崖線の緑地など、自然環境が残されています。その上、交通の便が良く、さらに、生涯学習施設をはじめとした公共施設の充実など、利便性の高い地域特性を持っています。

一方で、横田基地は、市域の3分の1を占めており、都市計画に大きな影響を与えています。そこで、これまで以上に福生市が持つ地域特性、資源を十分に活用していく必要があります。今後、福生市の自然、歴史、文化、産業など、地域の資源を改めて見つめ直し、福生市にふさわしい活力のある「まち」づくりに取り組むことにより、にぎわいのあるまちづくりを進めることが必要となっています。

福生市における「くらし」づくりの課題

福生市の人口構造が大きく変わることが予測されるとともに、地域における人と人とのつながりが希薄になりつつある現実を踏まえ、お互いの顔が分かり、ともに助け合い、安心して生活できる生活環境の創造が求められています。そのため、「市民間の連携をはぐくむ」、「人にやさしい」、「生活者の視点を大切にする」という考え方に基づいた「くらし」づくりに取り組むことにより、住み続けたいくらしづくりを進めることが必要となっています。

基本構想策定の趣旨

本基本構想は、これまでの総合計画の成果を踏まえ、まちづくりを「ひと」、「まち」、「くらし」の視点から目標を定め、今後のまちづくりの方向を明らかにするため、策定するものです。